



国民の森林・国有林

中部森林管理局

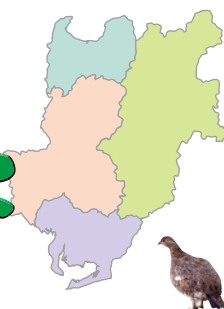
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



親子森林体験教室でミニチュアハウスの組み立てと植樹作業を体験する親子

スッキリと晴れわたった青空のもと 親子森林体験教室を開催

(P4～5に関連記事)

主 な 項 目	○ 各地で植樹祭を開催 P2～4 ○ 各地からのたより P4～7 ○ 風景紀行 P8
---------	--

各地で 植樹祭を開催



「ふるさと森づくり県民の集い」
長野県植樹祭開催

【指導普及課】五月二十九日(土)、長野県、中部森林管理局、駒ヶ根市、宮田村などが主催する、平成二十二年度ふるさと森づくり県民の集い・第六十一回長野県植樹祭が「森づくり豊かな地域の第一歩」をテーマに駒ヶ根高原スキー場を主会場に開催されました。

当日は、地元地域のみどりの少年団を始め、林業関係者、一般参加者など約千四百人が参加し、植樹会場である駒ヶ根市駒ヶ根高原や宮田村黒川平の三会場、約二つの民有林に分かれ、植樹作業に汗を流しました。



緑の少年団と城土局長

今回の植樹祭では、森林の多様性を高めることを目的に、イロハモミジやオオヤマザクラを始め、会場付近に自生する郷土種である十四種の苗木、計二千四百十本を植樹しました。

「ふるさと文化の継承」 「とやま森の祭典」



【富山署】第十一回とやま森の祭典が五月二十八日(金)、射水市「県立公園 太閤山ランド」で「根つ子から 大きな未来が みえてくる」をテーマに、花とみどりの少年団員、農林漁業関係者ら約二千名が参加して開催されました。

前日までの雨も上がり、さわやかな初夏の風が吹く中、城土局長、知事、市長らにより、射水市の市木であるトネリコの記念植樹が花とみどりの少年団とともに行われました。トネリコは、かつて、湿地地帯の水路や田んぼ道等に植えられ、用水路の土留めやはさがけに利用されたことから、射水市水郷地帯のシンボルとなっているものです。

また、今年は「県民参加の森づくりフェア」が新たに設けられ、石井知事と森づくりに関する野外公開トークが行われました。

午後からは第二部として「森とのふれあいフェスティバル」が開催され、富山署は来訪者に森林への関心を一層高めてもらうために森林クラフト教室、しおりづくりのブースを開設し、併せて、地域

と連携して実施している雲ノ平植生復元作業、森林整備、治山事業などのPRパネル展示も行いました。



みどりの少年団と記念植樹をする城土局長



ブースで富山署の取り組みをPR

愛知県植樹祭

緑と田園の飛鳥村で開催
飛鳥学園(小中一貫校)で植樹



【名古屋事務所】「伝えよう 緑の地球いつまでも」をテーマに、平成二十二年度愛知県植樹祭が「国際生物多様性の日」の五月二十二日(土)に飛鳥村で開催され、飛鳥村民はじめ、愛知県下の緑化関係者、飛鳥学園児童・生徒、来賓ら千二百名が参加しました。

記念植樹は、今年四月に開校し全国から注目されている飛鳥立小中一貫教育校飛鳥学園の校庭に「愛知グリーンウェーブ運動」と「飛鳥学園親子」がアジサイなど約七百本を植樹、参加者がヒラトツツジなど約五百本を植樹して次世代に緑を引き継ぎました。

北信州植樹祭開催される



【北信署】本年度の北信州植樹祭が六月五日(土)、飯山市業の花公園において開催されました。

心配された天候も回復し、青空の下、すがすがしい風が吹き入る植樹日和の中、みどりの少年団、一般参加者、林業関係者など約四百名の参加者は、カスミザクラ、ヤマブキの苗木約四百五十本の植樹や植栽木の周囲へのチップ敷に汗を流しました。

この植樹祭は、北信州森林祭実行委員会(北信地区緑化推進委員会、地方事務

式典では、信越トレイルの維持・整備活動やギフチョウ・ヒメギフチョウの生息地の保護・保全活動をしている団体への表彰や国土緑化、野鳥愛護コンクール表彰が行われ、地元飯山市立秋津小学校、木島小学校二校のみどりの少年団による「かけがえのない緑豊かな森林を大切にしていこう」「先人が残した豊かな緑を育てていこう」「緑ある豊かな社会をつくる」の誓いの言葉の発表後、植樹作業



植栽した樹木の周りにチップを敷くみどりの少年団

が行われました。

約一時間の作業後は、用意された豚汁をいただきながら、地元飯山市立東小学校児童の鼓笛隊の演奏を堪能し日程を終えました。

管内町村との合同植樹祭を開催

【南木曽支署】五月十三日に南木曽町・木曽森林管理署南木曽支署合同植樹祭を南木曽国有林において、南木曽小学校みどりの少年団をはじめ、愛知県長久手町ほか約二百名が、南木曽町の町木であるヒノキ等苗木二千六百本の植樹に汗を流しました。

式典では、南木曽小学校みどりの少年団の代表二名より「トトロの森に出てくるような森にしたい」と題して「環境のためや地球温暖化防止のため、たくさん木を植えたい」「よく育つように一生懸命植えます」といった作文発表の後、植



一生懸命植樹するみどりの少年団



雑木の除去に汗を流す小学生

樹作業と森林教室が行われました。

また、五月二十二日（土）に木曽郡大桑村の「のぞきど森林公園」において大桑村・木曽森林管理署南木曽支署合同育樹祭を開催し、愛知県北名古屋市市民をはじめ、村民ら約二百四十名が公園内のツジの生育を妨げる下草や雑木の除去に汗を流し、次いで、大桑小学校五・六年生の木製コカリナ演奏と、北名古屋市西春青少年少女合唱団の合唱が行われ、育樹祭終了後は小学生を対象としたシイタケ植菌作業の林業体験も行われました。

これらの行事は町村との共同開催で行っています。今後も、地域と協働し継続していく中から、このような取組を地域はもとより下流域に情報発信していきたいと考えています。

分収造林契約地で地元住民らによる「悠久の森」記念植樹

～高山市国府町宇津江四十八滝古峠国有林～
【飛騨署】中部森林管理局と日本森林林



植栽祭に参加された皆さん

業振興会名古屋支部（土川哲夫支部長）の間で昨秋協定が締結された分収造林契約地を「悠久の森」と命名し、五月三十日（日）、地域住民の参加の下、植樹祭が開催されました。

この分収造林地は県立自然公園宇津江四十八滝の上流部一帯を占める古峠国有林であることから、より水源の働きが高まるようにとケヤキ、ミズナラなど七種類の広葉樹四百本を植栽しました。

植樹祭は、振興会や高山市美しい森林づくり実行委員会、飛騨森林管理署が主催し、六月に岐阜県で開催される「全国豊かな海づくり大会」協賛行事として計画されました。

「豊かな海も豊かな森林から流れ出る

水があつてこそ」との思いと、美しい滝や清流を自分たちの手で守りたいという思いで、小さな子供たちから大人まで、百五十名の参加をいただき一本一本地域住民たちの手で丁寧に植え付けられました。植樹のあとは、六班に分かれインストラクターの案内で四十八滝めぐりや自然観察会など、新緑の散策を楽しみました。参加した地元町内会の方からは、「国有林で地元の大勢の人が参加して植樹し楽しい日となった。」「植えた木々がすくすくと育ち、この森の水が、地域の宝である四十八滝の豊かな水源となり、下流域をも潤してくれることを願っています。」と話されていました。

「来場者も当時の写真にびっくり！」 岐阜県みどりの祭りで 治山事業をPR

【東濃署】五月二十二日（土）、土岐市にある「陶史の森・せせらぎ公園」において「第四十回岐阜県みどりの祭り」が開催され、署長以下職員四名が参加しました。

この催しは、岐阜県が定める「木の国・山の国県民運動」における春の中心行事として毎年開催されています。

会場の「陶史の森・せせらぎ公園」は平坦な里山に囲まれた静かな自然公園となっており、当日は天候にも恵まれたことから、地元市民を中心に多くの来場者で賑わいました。

土岐市周辺は陶磁器産業が盛んな地域

として有名ですが、元々脆弱であった地質に加え、窯の燃料となる木々の濫伐が大規模な荒廃地を生みだしたことから、昭和七年に農林省の直轄事業として治山工事が始められました。

戦後、この事業は当時の名古屋営林局に引き継がれ、事業が完了する昭和四十五年まで続けられました。

当署のテントではその当時の荒廃の様子や復旧していく様子を映した写真などを展示し、地元小学生にはパネルを使用して治山工事の果たす役割についての教室を開きました。

訪れた市民や子供達からは「近くに住んでいるけど知らなかった」「説明を聞いて治山の事がよく分かりました」などの感想が寄せられました。

当署では、現在国交省と連携した「治山・砂防教室」を開いており、今後も機会あるごとに「治山」についてのPRを進めていくこととしています。



地元小学生に治山事業の役割を説明

各地からのたより

戸隠森林植物園でボランティア

長野県土木協会北信分会

【北信署】四月二十一日（水）、長野県土木協会東北信支部北信分会会員二十五名が戸隠森林植物園を訪れ、ボランティア活動を行いました。

この活動は同会の社会貢献活動の一環として行われているもので、今回で五回目となります。

参加者は、除雪されたバリアフリー歩道の支柱にグリーンロープを約二メートルにわたって張った後、デッキブラシで歩道に付着した苔を落とす清掃作業を行いました。グリーンロープは、散策者の転落防止と、湿地帯への進入防止のために設置しています。さらに苔を落とすことにより、歩道は滑りにくくなり、木道の腐朽を防止することができま

す。今年例年と比べると残雪が多く、四月に入ってから気温の低い日が続いていましたが、当日は暖かい日差しに恵まれました。参加者は、わずかに顔を出し始めた湿地と、様々な鳥のさえずりに春の訪れを感じながら、作業を進めていました。慣れない作業に疲れた様子でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。十分な達成感を味わうことができたようです。

戸隠森林植物園は四月二十四日（土）



戸隠森林植物園散策歩道の整備をする協会の皆さん

に開園し、多くの来園者を迎え入れま

「ムクリ沢林道」

地元住民による現地視察

【南木曾支署】四月二十七日（火）、ムクリ沢林道において南木曾町長を始め地元区長など二十二名が参加して現地視察を開催しました。

ムクリ沢林道は平成九年度に着工し、この間総延長約四・一キロの林道を開設してきました。

当地域（北蘭国有林）は木曾川支流の蘭川右岸に位置し、地形は全般に急傾斜地が多く、地質は風化浸食が進んだ花崗



林道整備の必要性等について意見交換

岩地帯となっており、裸地化した箇所においては降雨の度に土砂が流出する脆弱な地質となっています。また、この林道沿線は樹齢百年前後の人工林ヒノキを有し、間伐を実施しつつ広葉樹の生育も促進しながら複層林化を図り、より災害に強い林分に誘導する必要があります。

このため工事や森林整備に際し、下流域の地元住民の理解を得ながら進めることとし、法面緑化・アスファルト舗装等による土砂の流出を抑えた工法や間伐について、現地視察などを実施してきました。

当日は雨降りの中でしたが、参加者全員でシラカバの記念植樹を行い、終了後は地元公民館で工事内容や森林整備、今年度以降の間伐と林道整備の必要性、さらには隣接民有林との連携等について意見交換を行いました。

参加者からは「開設の努力に敬意を表したい」「林道は入口と出口が一緒ではなく幹線的な林道が望ましい」「林道延長により民有林の間伐も進む」など、活発な意見・要望が出され、意義深い現地視察となりました。

今後とも地元関係者との意見交換に努め、地域に密着した森林整備に取り組むこととしています。

「親子の森林体験教室」を開催

【指導普及課】六月五日（土）、長野市及び近隣市町村の小・中学生の親子を対象に、職場見学や林業体験等を通じ、自然の素晴らしさや森林の働きや役割について、親子が一緒になって学んでいただくとともに、国有林野事業の様々な取組をPRすることを目的とした「親子の森林体験教室」を、長野市の北信木材流通加工センター及び戸隠高原において開催し、八組、二十三名の親子・家族が参加しました。

北信署管内の国有林材を扱っている長野市の北信木材流通加工センターでは、参加者全員が協力しミニチュアハウスづくりに挑戦しました。

今回使用したミニチュアハウスは、一般住宅と同じ方法で設計され、プレカット加工した本格的なもので、大人と子供達が各工程を分担しながら、家を建てるための作業を体験し、立派なミニチュア



戸隠国有林にて植付作業を体験した親子の皆さん

ハウスを完成させました。

戸隠高原では、スッキリと晴れた青空のもと、戸隠森林植物園内に散策しながら家族揃って昼食をとり、その後、会場を戸隠国有林に移して、植付作業を体験しました。

「小鳥たちの住む森に、実のなる木を植えよう」を合言葉に、親子・家族で力を合わせ、ナナカマドの苗木、約五十本を植栽しました。

作業前に参加者の皆さんに伺ったところ、多くの方から「鋏を使ったことがない」「植付作業が初めて」といった声が聞かれましたが、悪戦苦闘しながら親子・家族が力を合わせ、普段経験できない貴重な体験をしていただくことができたのではないのでしょうか。

よみがえれ！高山植物

【南信署】五月二十二日（土）、南北八ヶ岳保護管理運営協議会（会長＝茅野市長）は、北八ヶ岳の麦草峠において鹿よけネットの設置作業を実施しました。作業には、同協議会関係者、県内外のボランティア、森林管理署（東信署、南信署）等、二十二名が参加しました。

この事業は、林野庁による野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業として、昨年十月より開始されたものです。

麦草峠（標高二千二百二十七メートル）は、以前までヤナギランなど貴重な植物が生息していましたが、鹿の食害によりその姿は年々見られなくなりました。そこで昨年、高山植物と野生鳥獣との共存に向け、麦草峠の草原周囲七百二十メートルに鹿よけネットを二回の高さまで張り上げ、今回が二年目の作業となりました。

また、協議会では、信州大学農学部には八ヶ岳におけるニホンジカ食害の実態調査と高山植物の緊急保護に関する調査を委託し、鹿の行動範囲やパターンを追跡する中で、有効的で動物にとっても低ストレスである植物の防護方法の研究などの取組も行っています。

麦草峠の草原で山小屋を経営する麦草ヒュッテ周辺では、ヤナギランの復元の兆しが見受けられ開花が期待されるな



元島指導官の報告を聞く登山者

【南信署】八ヶ岳の開山を翌日に控えた五月二十九日(土)の夜、硫黄岳山荘において登山者等に対して、当署主催による勉強会を行いました。

勉強会では、中部森林管理局指導普及課の元島生態系管理指導官から、このほど取りまとめられた「八ヶ岳の高山帯におけるシカ被害調査報告書」をもとに、

登山者へシカ食害の現状を説明

ど、入山者からもこの事業の継続が望まれています。



鹿よけのネットを設置する参加者

ニホンジカ食害による植生への被害状況等の説明を行いました。

当日は、夏山シーズンの開幕を楽しみに山小屋に宿泊していた百八十名もの登山者が八ヶ岳におけるシカ被害の現状を真剣な表情で聞き入っていました。中でも、横岳の山頂直下にも本来生息していなかったシカの侵入が見られ、希少種のツクモグサの他ウルップソウ、コマクサなどにも食害が及んでいるという報告には会場でどよめきが起こるなどシカ被害の深刻さを感じ入っている様子でした。

昨年、設立された南北八ヶ岳保護管理運営協議会では、これらの被害状況等を踏まえ、緊急的に高山植物を保護するため被害の著しい台座の頭(横岳・硫黄岳)にシカ除け柵を設置する計画をたてています。

関係者間ではシカ食害の現状を承知し、様々な取組が実施されているところですが、まだまだ一般の方々の認識は低く、改めて啓発が必要であると感じさせられました。

「宮の大イチイ」

周辺整備完成式を開催
高山市一之宮町宮国有林

【飛騨署】当署管内の大イチイは、富山湾へ流れる宮・庄川の最源流部に位置する天然ヒノキの遺伝資源保存林内にあり、これまでも地元の小中学校の森林教室等に活用してきましたが、歩道や階段



完成した展望デッキから大イチイを見学

がぬかるんで滑りやすい。保護柵から遠くで見づらい等の声がありました。これを受け、昨年度にレクリエーション施設の整備として、大イチイ周辺に木道や階段を新設し、大イチイをより間近で見学できるように展望デッキも二箇所を設置しました。そして去る六月四日(金)、地元の宮小学校六年生による大イチイ散策が完成後初めての行事であることから、高山市一之宮支所との共同による完成式典を開催しました。

当日は天候にも恵まれ清々しい新緑の下、高山市議会議員や地元のNPO等の参加者が見守る中、宮小学校の児童によるテープカットを実施しました。子供たちからは「歩きやすく整備してもらってありがとうございます。大イチイをはじめ、森林についての学習をこれからも頑張ります。」といった嬉しいメッセージのほか、展望デッキへ登って間近で大イチイを見上げると、「思ったよりでかい!」「すごいね」と次々に声があがり、イチイの歴史や生態の説明を受ける、興味深げに聞き入っていました。

なるほど生物多様性・

COP10まであと半年

記念フェスティバル

【名古屋事務所】「国際生物多様性の日」の五月二十二日(土)～二十三日(日)に生物多様性条約第十回締約国会議支援実行委員会の主催で「なるほど生物多様性・COP10まであと半年」記念フェスティバルが名古屋市のオアシス21でトークショー、子供ステージやミニコンサートなど多彩な催しが行われ、中部森林管理局としてブース展示を行い緑の大切さをPRしました。

ブース出展団体は農林水産省林野庁中部森林管理局をはじめとした中部地方の行政機関、企業、NPOが二十団体出展し、各団体それぞれの活動状況や生物多様性に関するパネル展示や体験コーナーなど思考をこらした展示で各ブースとも連日大勢の人で賑わいました。

中でも、中部森林管理局のブースでは、サクラの小枝で作るストラップ(通



中部森林管理局のブース

称モックン)が大人気で、連日大勢の家族連れで賑わいました。

名古屋シティフォレスト事業 ―御岳遊歩道への木質チップの敷設―

【岐阜署】夏を目前にして新緑が一層深まる中、「第五回名古屋シティフォレスト事業」を下呂市小坂町の落合国有林にて六月九日(水)に開催しました。

前日まで曇り空が続き天気が心配されましたが、当日は一転して快晴となり絶好の作業日和となりました。

遊歩道入口にて袋詰めした木質チップを順番に敷き詰めていくという作業でしたが、隊員の予想以上の作業進行



作業の様子



隊員の皆さん

により予定していた時間より早く終了し、その後の作業を森林探索に切り替えて滝めぐりを行いました。

今回案内した「仙人滝」、「材木滝」は小坂の滝めぐりコースにも指定されており、その清々しい光景に隊員からは「水や空気がきれい」、「貴重な場所を訪れることができて良かった」といった感想が聞かれるなど好評でした。

今回の作業地には日本一標高の高い温泉地をうたう「濁河温泉」があり、参加された隊員は疲れを癒すべく温泉を満喫し帰路につきました。

シリーズ 現場最前線

中央アルプス駒ヶ岳とともに

南信森林管理署駒ヶ根森林事務所

駒ヶ根森林事務所は、天竜川西側の黒川、赤穂、中田切、飯島、上片桐、大島山国有林東側に四徳国有林の約一万一千畝を管理しています。

また、管内には木曽駒ヶ岳を主峰とする中央アルプスがあり、花崗岩の白さとハイマツの緑につつまれた千畳敷カールや高山植物の花畑など美しい景観を求め、年間を通じて多くの登山者やハイカーが訪れています。

現場班は、境界巡検などの森林保全管理業務を中心に事業を実行しており、夏



高山植物の保護活動(グリーンロープの点検補修)

山の最盛期にはGSS等と連携しながら高山植物の保護・啓発活動も実施しています。

現場作業に当たっては、毎朝、森林事務所において森林官とその日の天候や作業内容に応じた作業段取りや安全作業の確認等のミーティングを行い、基本動作の遵守、不安全行動の排除等を念頭に、必要な作業を正しい手順での実行を心掛けています。

これから事業の最盛期を迎えるわけですが、南信森林管理署として地元住民等に、良い仕事をやっているといわれる目に見える形での事業を進めていきたいと思っています。

行事・会議等の予定

◎全国安全週間

7月1～7日

◎国観協総会

7月1日 長野市

◎平成23年度民有林直轄治山事業ヒアリング

7月7～23日 中部森林管理局

◎高植協総会

7月9日 中部森林管理局

◎名古屋シティ・フォレスト事業

7月10・23・29日

富山・飛騨・東濃署管内

お悔やみ申し上げます



故 高見公一氏

企画調整室監査官(名古屋事務所副所長)

農林水産技官 高見公一氏(五十三歳)は五月二十四日に、ご逝去されました。

高見氏は、昭和五十年名古屋営林局莊川営林署に採用以来、小坂署、久々野署、付知署、飛騨署、北信署に勤務。また、本局においては、総務部専門官、企画調整室監査官(名古屋事務所副所長)として総務関係業務において活躍されてきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



癒しの伝統文化「布橋灌頂会」 (ぬのばしかんじょうえ) (立山)

「富山署」神々しい霊山・立山は、江戸時代、山中に地獄と浄土があり「あの世の世界」と考えられていました。男性はあの世である立山に立ち入ることで擬似的に死者となり地獄の責め苦に見立てられた厳しい禪定登山を行うことで罪や穢れを滅ぼし下山します。こうして新たな人格・生命を再生し、現世の安穏や死後の浄土往生が約束されたいわれています。

しかし、当時の立山は女人禁制の場所でした。そこで、立山の入口にある立山町芦峯寺(あしくらじ)では、男性の禪定登山と同義の儀礼として、女人救済のために閻魔堂・布橋において、女性の浄土往生を願って「布橋灌頂会」の法会が行われるようになりました。

この法会に参集した女性参詣者は、閻魔堂で懺悔の儀式を受けたあと、この世とあの世をつなぐ朱塗りの布橋を白装束に目隠しをした姿で僧侶に導かれながら白い布の上を渡り、「死後の世界」に赴きます。布橋を渡ると、立山山中に見立てられたうば堂(現在の遙望館)の中に導かれ、そこで目隠しを解くと暗闇の中です。やがて室内の覆いが上がると、目に射し込む光の先に、立山につながる別世界を目前に体験することができたそうです。

このような儀式は、明治の廃仏棄釈による影響で廃止されていましたが、平成八年に立山町主催による復元イベントが開催されました。以来、平成十七年、十八年、二十一年と開催され、昨年は、県内をはじめ京都、大阪などから七十名を超える女性に参加し、また三千名もの観光客が訪れています。(開催日等の問い合わせは立山町商工観光課まで)

◆アクセス

立山ICから車で 布橋 県道六号線

(立山街道) 約三十分



称名滝(落差350m)



布橋灌頂会



まんだら遊苑
(餓鬼の針山から見た精霊橋)

【周辺散策】
立山博物館(まんだら遊苑、遙望館)から少し足を延ばせば、「称名滝」日本一の落差を誇る名瀑布(ブナ坂国有林)また、富山地方鉄道「立山駅」からは美女平、室堂方面(ブナ坂国有林)へ行けます。



遙望館ホールから望む立山連峰